

本学同窓会主催

大野 榮人 学長就任祝賀会開催される



7月1日(木)名古屋東急ホテルにおいて、大野榮人学長就任祝賀会が盛大に開催された。この祝賀会は本学各学部同窓会が主催、愛知学院大学後援会が共催となり催され、祝賀会には来賓、後援会役員、教職員等の約550名が出席した。

祝賀会は加藤勇法学部同窓会会長の開会の辞に始まり、主催者を代表して井上峰雄蘭学部長が挨拶、青山稔後援会長の挨拶の後、来賓挨拶として、小出忠孝愛知学院学長、寺西学愛知県議会議員、宮村一弘愛知県歯科医師会会長より挨拶を頂いた。その後、文学部・心身科学部同窓会会長より記念品・花束の贈呈があり、大野学長からは祝賀会開催に対する謝辞ならびに新学長としての意気込みなどの抱負が述べられた。祝賀会は終始賑やかな雰囲気になり、今後の大野学長の益々の活躍を期待し盛況のうちに終了した。



第171号

編集発行

愛知学院大学
事務局 庶務課

☎ 470-0195

愛知県日進市岩崎町
阿良池12
電話 ☎ 0561-73-1111(代)



AICHI GAKUIN
UNIVERSITY



大学評価・学位授与機構評議員会

副会長に小出学院長再任される。
国公立大学の大学評価や私立大学校短大の学位授与を行なう、この機構の重要事項を審議決定する評議員会(会長佐々木毅東大元総長)の副会長に小出学院長が再任された。東大・京大総長らが委員となり、大学評価の先導的役割を担う機構の責任は大出学院長の活躍を期待する。

就任挨拶

後援会会長に選任されて



後援会会長 青山 稔

去る5月8日の後援会総会において、後援会会長という大役に選任され就任いたしました青山でございます。大変本校がますます発展、成長を遂げているのはひとえに学院長・学長ほか教職員の方々の御協力、ご指導のおかげです。また、このような発展・成長の要因の一つに「後援会」の存在を忘れてはならないと思います。本後援会は、学生の教育について大学と家庭が密な連絡を保ち、教育効果の向上を期するために昭和28年、大学創立と同時に発足しました。

なかでも大学は今、8学部17学科、9研究科12専攻、短期大学部を備え、学生総数1万2千名を超える中部地区最大の規模を誇る総合大学でもあります。

今年の4月よりは、長年、愛知学院学長、愛知学院大学学長を歴任いただきました小出忠孝学院長先生には、学院長職にご専念を頂き、新しく大野榮人学長を迎え、大学として新たな歴史を作り出すという出帆の年でもあります。

私も後援会と致しましては、出来る限りのご協力をさせていただきます。後援会の重要な事として、建学の精神

去る5月8日の後援会総会において、後援会会長という大役に選任され就任いたしました青山でございます。大変本校がますます発展、成長を遂げているのはひとえに学院長・学長ほか教職員の方々の御協力、ご指導のおかげです。また、このような発展・成長の要因の一つに「後援会」の存在を忘れてはならないと思います。本後援会は、学生の教育について大学と家庭が密な連絡を保ち、教育効果の向上を期するために昭和28年、大学創立と同時に発足しました。

なかでも大学は今、8学部17学科、9研究科12専攻、短期大学部を備え、学生総数1万2千名を超える中部地区最大の規模を誇る総合大学でもあります。

今年の4月よりは、長年、愛知学院学長、愛知学院大学学長を歴任いただきました小出忠孝学院長先生には、学院長職にご専念を頂き、新しく大野榮人学長を迎え、大学として新たな歴史を作り出すという出帆の年でもあります。

私も後援会と致しましては、出来る限りのご協力をさせていただきます。後援会の重要な事として、建学の精神

去る5月8日の後援会総会において、後援会会長という大役に選任され就任いたしました青山でございます。大変本校がますます発展、成長を遂げているのはひとえに学院長・学長ほか教職員の方々の御協力、ご指導のおかげです。また、このような発展・成長の要因の一つに「後援会」の存在を忘れてはならないと思います。本後援会は、学生の教育について大学と家庭が密な連絡を保ち、教育効果の向上を期するために昭和28年、大学創立と同時に発足しました。

なかでも大学は今、8学部17学科、9研究科12専攻、短期大学部を備え、学生総数1万2千名を超える中部地区最大の規模を誇る総合大学でもあります。

今年の4月よりは、長年、愛知学院学長、愛知学院大学学長を歴任いただきました小出忠孝学院長先生には、学院長職にご専念を頂き、新しく大野榮人学長を迎え、大学として新たな歴史を作り出すという出帆の年でもあります。

私も後援会と致しましては、出来る限りのご協力をさせていただきます。後援会の重要な事として、建学の精神

であります「行学一体・報恩感謝」の教えを基に、人格を育成し人物を養成し、広く世の中に各界に寄与し、人類の福祉と文化の発展に貢献することを旨としており、事実、各界には数多くの優秀な卒業生を送りこんでおります。少子化が叫ばれ、廃校、閉鎖を余儀なくされる大学が多い中、本校がますます発展、成長を遂げているのはひとえに学院長・学長ほか教職員の方々の御協力、ご指導のおかげです。また、このような発展・成長の要因の一つに「後援会」の存在を忘れてはならないと思います。本後援会は、学生の教育について大学と家庭が密な連絡を保ち、教育効果の向上を期するために昭和28年、大学創立と同時に発足しました。

なかでも大学は今、8学部17学科、9研究科12専攻、短期大学部を備え、学生総数1万2千名を超える中部地区最大の規模を誇る総合大学でもあります。

今年の4月よりは、長年、愛知学院学長、愛知学院大学学長を歴任いただきました小出忠孝学院長先生には、学院長職にご専念を頂き、新しく大野榮人学長を迎え、大学として新たな歴史を作り出すという出帆の年でもあります。

私も後援会と致しましては、出来る限りのご協力をさせていただきます。後援会の重要な事として、建学の精神



平成22年度
科学研究費
配分決定

文部科学省は、このほど「平成22年度科学研究費補助金」(以下、科研費)の配分について、機関別件数及び配分額等を発表した。科研費は、人文・社会科学から自然科学まで全分野にわたり、基礎から応用までのあらゆる独創的・先駆的な「学術研究」を対象とする「競争的資金」である。今年度本学は86件の採択があり、配分額は1億5,594万円(直接経費配分内定額)で、本学がこの地域で活発な研究活動をしている証でもある。今年度の内定一覧は下記のとおり。

平成22年度科学研究費補助金配分一覧(件数 86件、直接経費配分額 155,940千円)

研究代表者氏名	所属学部	職	研究種目	内定額(千円)	研究課題名
夏目 長門	法学部	教授	基礎研究(A)	4,900	口腔先天異常疾患関連遺伝子解析研究
野口 俊英	法学部	教授		6,600	口腔・歯周病フローラのメタゲノム解析
千田 彰	法学部	教授		13,600	MIコンセンサスに基づいたレーザー歯科治療の新たな展開
中西 守	薬学部	教授		2,700	免疫・神経グローストックの分子イメージングと疾患への展開
佐藤 雅彦	薬学部	教授		3,100	カドミウム毒性における細胞内カルシウム濃度の調節とその分子機構の解明
河合 達志	法学部	教授		3,200	生体内骨髄質用光硬化型レジジン-BMP複合体の開発
横田 光弘	法学部	客員教授		4,000	地域住民を対象とした生活習慣病の予防・生活防衛プログラムの検証的疫学研究
中村 洋	法学部	教授		3,600	安定型マトリックスメタロプロテナーゼ3を用いた新しい歯周病治療薬の開発
齊藤 満	心身科学部	教授	基礎研究(B)	3,800	交感神経系と液性系による統合的な痛覚調節機構に及ぼす身体トレーニングの影響
大澤 俊彦	心身科学部	教授		4,100	過剰な炎症反応に由来する慢性炎症性腸病変質と抗酸化食品因子による抑制
南 克浩	法学部	講師		2,600	免疫系上層における口腔免疫応答の手術効果と免疫補助活動評価指標に関する研究
夏目 長門	法学部	教授		1,500	モンゴル人の乳製品多量摂取による口腔口蓋裂発現予防効果に関する研究
新美 剛幸	法学部	講師		3,000	ベトナム戦争による枯葉剤が先天異常ならびに胎児発症に及ぼす影響に関する調査
前田 初彦	法学部	教授		1,900	新世紀に向けたアジアにおける口腔病理学の標準化と専門医化動向に関する戦略的調査
吉田 和加	法学部	助教		3,100	ベトナム・メコンデルタの母子および家族における口腔領域のHPV感染の統一的調査
古川 博雄	心身科学部	講師		600	自然発生口腔口蓋裂と人工的口腔口蓋裂の発生と応用に関する研究
都築 正宣	薬学部	教授		400	視覚覚醒学生の実験的学習指導のための点字式発音記号やイントネーション符号の開発
吉野 忠秀	薬学部	准教授		1,200	顕微鏡光学法による神経-免疫シグナル伝達分子機構とその機能解析
近藤 信太郎	薬学部	准教授		700	歯髄痛における三叉神経の歯髄内経路の変異
村木 克彦	薬学部	教授		700	転写調節・エピジェネティック修飾による歯髄系カチオンチャネル発現調節機構の解明
前田 初彦	法学部	教授		1,000	適化抑制DNAワウチンの最適化を目指した抗炎症リパーシシステムの基礎的研究
戸辺 彰史	法学部	教授		600	骨芽細胞における交感神経系を介した時計遺伝子発現に関する分子生物学的研究
泉 雅浩	法学部	准教授		900	顎顔面マッジョロロットによる口腔乾燥治療
有地 繁一郎	法学部	教授		800	被曝量とランドマーク設定の両面性を考慮した顎顔面CT3次元形状計測法を提案する
今泉 一郎	法学部	講師		900	ラット歯髄痛の成立過程におけるMMPs/TIMPsの発現
中田 和彦	法学部	講師		700	ヒト骨髄幹細胞を用いた象牙質再生と新規な幹細胞導入治療法の開発
栗田 直樹	法学部	講師		800	歯髄再生促進因子を用いた新しい歯髄治療薬の開発
田中 貴信	法学部	教授		700	遺伝子反応からみた口腔内細菌叢の安全性
尾澤 昌徳	法学部	准教授		800	歯質リサイクル型骨補填材料の開発
新美 剛幸	法学部	講師		900	環境ホルモンが口腔口蓋裂発生に与える影響に関する研究
加藤 一夫	法学部	准教授		1,100	定量的なマッピング法による口腔バイオフィルムへの介入効果の評価に関する研究
梅川 正美	法学部	教授		1,800	テロ時代における国家秩序構築に関する日米比較研究
林 淳	文学部	教授	基礎研究(C)	1,000	近世の寺社と御所の宗教者による廻廻・配祀活動についての研究
梶浦 雅己	法学部	教授		1,100	コンセンサス標準化のイノベーション研究～先端技術の普及と収益化の実証分析～
向 伊知郎	経営学部	教授		600	企業集団の財務報告基準の理論的整合性と実務適用可能性
河村 好章	法学部	教授		600	腸内細菌叢の精密解析法の開発と腸内細菌と腸管免疫の相互作用の解明
内藤 宗孝	法学部	准教授		1,200	放射線治療における歯肉インプラント周囲の線量シミュレーション
成瀬 桂子	法学部	准教授		1,100	歯髄幹細胞を用いた歯髄再生性神経再生に対する再生医療
南 克浩	法学部	講師		1,200	人工口蓋による口腔口蓋裂術後治療効果の定量的評価
後藤 達巳	法学部	教授		1,300	特異的破骨細胞抑制剤を用いた歯肉の移動と歯肉再建システムの開発
石原 裕一	法学部	准教授		1,500	歯肉再生促進因子を用いた歯肉再生と新規な幹細胞導入治療法の開発
森田 一三	法学部	講師		800	ソーシャル・キャピタルと口腔の健康要因に関する研究
木田 香里	心身科学部	教授		700	大豆製品・乳製品の食後血糖値抑制効果
野島 忠司	文学部	教授		1,800	多読指導が単語認知処理と読解処理の自動化に及ぼす影響
菊池 一隆	文学部	教授		1,000	第二次世界大戦後における地球規模での暴動の動機と構造的研究
北住 博一	総合政策学部	教授		700	戦後ドイツ連邦共和国における外住性と内住性の交差・融合
飯田 寛	心身科学部	講師		1,600	失語症患者と家族介護者に対する心理社会的介入プログラムの開発
高木 靖文	薬学部	教授		600	近世藩閥における学術界隈の教育環境史的研究
山本 浩亮	薬学部	准教授		900	バイオフィルム感染治療・歯肉再生のための表面修飾ナノ粒子薬物キャリアの設計
橋本 和佳	法学部	准教授		600	咀嚼・咬合が歯肉に及ぼす影響
菅原 利夫	法学部	客員教授		1,300	パルカンが関与する上皮基底膜消失から検討した口蓋裂発生メカニズムの研究
高津 健	法学部	教授		1,000	矯正学的固定装置のための生体内吸収性メッシュ状インプラントシステムの開発と臨床応用
松原 達昭	法学部	教授		1,500	歯肉病がメタボリックシンドロームに及ぼす直接作用の解析
杉山 知子	総合政策学部	准教授		600	グローバル化時代のローカル・アクター・ラテンアメリカの人権NGOの発展と市民社会
竹内 慎仁	総合政策学部	教授		700	地方自治体の行政の効率性・行政経費と財政健康・財政改革
吉田 康夫	法学部	准教授		600	歯肉病組織によって発生されるインテグリンと歯肉疾患の関連の解明
大澤 俊彦	心身科学部	教授	決定的萌芽研究	1,500	クルクミン代謝受容体の探索および機能解析
水嶋 史史	心身科学部	講師		920	泳力向上を目指したストローク技術の解明
児玉 大介	法学部	助教	研究活動スタート支援	820	交感神経による骨代謝調節におけるTRPCチャネルの関与の検討
遠藤 哲也	薬学部	講師	若手研究(A)	16,200	哺乳類における歯肉再生の機構
阿部 厚	法学部	講師		500	歯肉平上皮におけるリンパ管(静脈)小管の検討
石塚 恭子	法学部	非常勤助教		1,300	破骨細胞形成における交感神経および感覚神経の影響
鈴木 聡	法学部	非常勤助教		1,100	口腔口蓋裂の最新遺伝子解析研究
森田 匠	法学部	講師		600	咬合高圧減少時のウシ口蓋裂および顎関節の協調運動動態
遠藤 哲也	薬学部	講師		700	マウス歯肉再生を目指した皮膚歯肉芽細胞と人工歯肉に関する研究
伊藤 義和	薬学部	助教		1,600	高効率・高安全性遺伝子導入ベクターの開発を目指したハイブリッドファクタントの開発
藤原 泰之	薬学部	准教授		1,300	動脈硬化におけるメタロプロテナーゼの役割と阻害剤の開発
中野 健二郎	法学部	助教		1,000	低出力レーザー照射効果の再現性研究
吉岡 文	法学部	講師		500	3Dモデリング法を用いたエビデンス制作の簡便化に関する研究
井村 英人	法学部	非常勤助教		1,500	新たな口蓋裂発生メカニズムの解析-口蓋裂発生後発症の原因について-
田淵 雅子	法学部	講師		1,100	骨のカップリング機構を応用した薬理的な骨の移動のコントロール
三谷 幸雄	法学部	講師	若手研究(B)	1,500	新規サイトカイン インターロイキン35 の歯肉組織における役割の検討
藤田 幸子	法学部	非常勤助教		1,400	高血圧状態での歯肉組織内細胞成分に対する樹状細胞の反応性について
大澤 俊彦	心身科学部	教授		500	破骨細胞を有する歯肉組織のニコチン代謝能阻害による多量分泌
長谷川 義明	法学部	講師		2,100	歯肉再生促進因子の付着因子と歯肉再生促進因子に関する基礎的研究
近藤 久美子	法学部	助教		1,500	活性酸素阻害剤を用いた歯肉組織活性化シグナルへのASK1関与の検討
栗田 直樹	法学部	講師		1,700	3種類の幹細胞を用いた象牙質・歯髄複合体再生治療法の開発
橋本 京子	法学部	非常勤助教		1,600	Er:YAGレーザーの根管治療への応用
林 達秀	法学部	講師		1,100	歯肉化骨芽細胞シート-rhBMPによる歯肉再生の確立
藤原 久美子	法学部	助教		1,100	口蓋裂発生メカニズムとフィロパディア-口蓋裂予防としてのイノシトールの影響
川口 美津津	法学部	非常勤助教		800	骨形成因子誘発性を有する矯正用セラミックスミニスクリューインプラントの開発
秋本 昌士	法学部	講師		500	成熟歯肉における新陳代謝・炎症の調節および歯肉再生促進効果
夏目 長門	法学部	教授		4,500	Manual for Oral Care
高田 三枝子	文学部	講師	研究奨励金公開促進費	900	日本語の語彙的発展の研究
夏目 長門	法学部	教授		5,200	Harapan tumbuh Kenbang Yang sempurn untuk anak penderita celah bibir dan lengit2
大羽 恵美	情報科学部	特別研究員(PPF)	特別研究員奨励費	600	中央ベトナムにおける伝説的研究
				155,940	

平成21年度
全学FD委員会
研究授業総括2010年5月28日
FD委員 荒井 耕一郎(経営学部)

研究授業の概要

本学FD委員会では、学部の枠を越えて教員同士が互いの授業を参観し、授業の進め方等について自由な意見交換を行い、教員同士が切磋琢磨しあうことで、学生にとって一層分かり易い授業が広く実施されることを目標に、平成15年度以来毎年研究授業を実施しています。7年目を迎える

と参観者との意見交換→FD委員会での議論→報告書の作成」という流れが定着してきましたが、「FD活動の義務化」が全国の大学に課せられるようになった状況に鑑み、より多くの先生方に研究授業を参観していただき互いの学び合いの機会を一層高めていただくため、①意見交換会日時を早期に決定し、広報用ポスターに掲載して研究授業への参加を促す、②研究授業に関する事項を記した案内状を作成し、各学部FD委員が先生方の参加を促す、③研究授業参観を希望する教員を各

引き続き、踏襲致しました。幸い、これらの工夫の結果、昨年度は前年度並みの多くの先生方の参加を頂くことができ、研究授業の目的を達成することができました。

研究授業後の開催した意見交換会での意見をまとめると、研究授業実施者は、例年同様、いずれも熱心に授業に取り組んでおられ、どの実施者の方々の話も、話し方・板書などの基本的な点がきちんとなされている

研究授業の総括と
今後の課題

たことが、先ず挙げられます。それ以外に工夫されているとして指摘された点は、①授業の最初に授業の流れの全体像を示していた、②前回の授業で実施した小テストの解説や補足説明が授業の最初に実施され学生の理解を促していた、③図画情報に適宜スクリーンに映し出し、視覚からの理解をも促していた、④二百人を超える多人数の授業では、配属されたTAが適宜講義室を巡回し、静かな環境の維持に努め教育効果を高めていた、⑤提出されたレポートの中で、良い内容のものは発表される

FD委員会では、今後ともこれらの課題の解決に積極的に取り組む、よりよい授業の実現を目指して行きたいと思

います。皆様のさらなるご協力をお願い致します。



夏休みに

迎えて

教務部長

竹市 良成

早いもので春学期も残すところ2週間となりました。皆さんはこの3ヶ月、勉学に、クラブ活動に、学生として有意義な生活を送られたことと思います。23日から30日は定期試験が実施され、春学期の学習の成果が試されます。

1年次生の方は初めて大学の試験を体験することになります。大学での試験は多くが論述式で、与えられたテーマについて論旨を明確に述べることが求められます。ノート、配布されたプリント、教科書、参考書等を、時間をかけ見直すことは是非ともやって頂きたいことです。試験についての諸注意事項は各学部の履修要項の「授業・試験・成績」に記載されており、試験が受けられない状態にならないよう注意してください。

2年次生には専門課程へ進級するという関門があります。4月当初の履修計画通り進めば進級が可能となるはずですが、3年次生は主として専門科目が中心となりますので、自らの専門を深めるための努力をしてください。4年次生は既に就職活動を進めている方ばかりです。卒業に向けてラストスパートをかけてください。まだの方はこの不況下で就職活動も気になり大変でしょうが頑張ってください。

いずれの学年の方にも共通して勉強不足のために、つい不正行為に走り、ご自分の学生生活に汚点を残さぬよう十



分な準備をして臨んでください。もし、試験等について不明な点がありましたら遠慮なく教務課窓口を訪ねてください。

試験に際して特に皆様に伝えたいことがあります。本年4月1日より施行された「試験」についての不正行為に関する内規「中の不正行為者の処分」に、不正行為者は教授会の議を経て1カ月の停学とし、その学期の履修科目全科目が無効、また替玉受験については双方とも無期停学とし、その年度の履修科目全科目が無効となります。さらに再試験においての不正行為者は、1ヶ月の停学、再試験科目全科目無効となり、卒業・進級不可となります。再度不正行為をした者は退学処分となります。

この内容は従来よりも厳しい内容となっております。これは皆様の学生生活に不正行為という汚点を絶対に残してほしくないという我々教職員

熱狂と興奮のため息と、やがて大きな拍手のサッカード杯の杯の音が去りました。昨年の今頃は、新型インフルエンザの発生により、まさに私達の大学生活の軸である学業その他に多大の影響が出ました。幸い今年、今のところそのような事象は出ていませんが、毎日蒸し暑い日が続いています。夏休みを前に、まず健康第一と肝に銘じていた

前とはいえ、4年生の人たちははたまたま就職試験、資格試験などに身を削っていることと

思います。近い将来には、世間の風浪に身を投じて行かねばなりません。どうぞ健康に留意し、粘り強く頑張ってください。

さて、7月23日から始まっている春学期定期試験、順調に

進んでいるでしょうか。十分に準備し自らの力を存分に発揮してほしいものです。残念ながら、相変わらず不正行為するものが出てきます。不正行為は絶対許してはなりません。保護者が呼び出される、停学処分になる、春学期履修全科目が無効になるからだけではありせん。ことは自らの誇りと自負心の問題なのです。失敗を恐れず、正々堂々

試験に立ち向かってください。試験に際しても、真正面から立ち向かうことこそ本当に貴いことです。

この定期試験が終わると待望の夏休み。夏休みは、比較的自由な時間を持つこと



夏休みに

向けて

学生部長

黒神 聡

ができます。この自由な時間こそ、悩みや希望を持ちながら自らの可能性を求める青年期には必要不可欠な要件であると思います。人生の節目を

も作り、創造を生み出す。自分作りの何かを求め、夢中でやり抜き充実の機会に是非

にしたいものです。そのことから、次に自らの学生生活でやるべきことや、やりたいことがほんのりとでもより定まってくる「きっかけ」に

でもなければ最高です。しかし、この「創造の自由」を間違え

るとしてもないことにもな

ります。自由は、時に惑乱を

顕在化し、また時に情気をも

起す厄介な代物ともなりま

す。「履き違えた自由」「履

き違えた元氣」は、得てして

この「自由な夏休み」に起こ



夏休みの

過ごし方

キャリアセンター部長

芝 隆史

今年の就職戦線は昨年以上に厳しいのが現状です。6月18日現在、内定先を持つ

っている学生の割合は全学で

22.0%。最も良い学部でも

26.0%と軒並み昨年同

期に比べて10ポイント近く低

くなっています。

その理由として、企業側が

不況による採用手控えを断行

していることもあり、

逆にこの時期を良い人材が採

れるチャンスと捉えて内定を

出すタイミングを遅らせてい

るといった背景もあるよう

です。

ただ、色々な理由はあるに

せよ、募集企業数、募集人数

ともに昨年に比べて30%程度

減っていることも事実です。

私の知る限りでも金融関係

を中心に数十社にトライした

が、ことごとく跳ね返された

という学生が何人もいます。

こういふ現実から目をそら

す事なく3年生以下の皆さん

にはこの夏休みを将来のため

に有意義に送ってもらえるよ

う期待します。

本学では1年次より「キャ

リアデザイン」という科目が

開講されています。さらに2

年次からは「インターンシッ

プ実習」が開かれています。

自分の将来がどのような仕

事に向いているのか、自分は

どのような適性があるのか、

自分の本心に得意分野は何

なのかをじっくり確かめる場

として、これらの科目を活用

してもらいたいのです。

多くの人は自分にはどん

な職業があつていのかを本

当はわからないまま就職を決

めているようです。

それがすべて失敗につなが



夏休みに

向けて

短期大学部
歯科衛生学科・科長

向井 正視

歯科衛生学科の皆さん。春

学期の授業・試験期間が終わり

いよいよ夏休みが始まります。

歯科衛生学科では学年によつて、

夏休み期間に違いがあります。

第一、第二の両学年は日頃の

学習の成果を十分に発揮して、

楽しい夏休みを迎えることがで

きるように、春学期の試験週間

を自らの学習計画によって優

れた成績を残し、確実に単位を修

得できるようにして下さい。試

験週間が終われば、1年生の皆

さんは高校時代とはほぼ同じ日数

の夏休みがあります。

一、二年生の皆さんは八月下

旬に再試験がありますので、春

学期の成績が思わしくなかった

人は、夏休み期間が短くなりま

す。

二年生は九月一日から秋学期

が始まり、臨床実習前の予備実

習がスタートします。二年生の

春学期までに習ったことを確実

に身につけて、実際に実行でき

るようにトレーニングする集大成

の期間です。十一月十三日の戴

帽式まで、かなり綿密な授業計

画がたてられています。夏休み中

に今までの講義・実習科目の復

習をして下さい。それに、

臨床実習は大学での授業とは別

の環境において実施されます。

実習でありながら一種のインタ

ーシップでもあるわけですね。

慣れない環境での実習ですから、

心身ともに自分をコントロール

できるように、夏休みを利用し

て習慣づけをして下さい。

最終学年の三年生はほんの僅

かな夏休みしかありません。し

かも一番暑い時期ですが、今ま

より願っています。

名誉教授称号授与

本学教授会は、平成22年3月31日付で退職された、嶋尚武・前教養部教授に名誉教授の称号授与を決定した。

嶋前教授は、昭和39年早稲田大学第1文学部哲学科卒業、昭和43年早稲田大学大学院文学研究科西洋哲学専攻修士課程修了、昭和48年早稲田大学大学院文学研究科西洋哲学専攻博士課程単位取得満期退学。長野県短期大学に奉職後、



昭和61年本学教養部教授に就任。本学での教授期間は24年間におよび、その間の教養部において哲学、論理学および教養セミナーを担当し、教育・研究に尽力された。

研究分野はドイツ近代哲学であり、特にカントとヘーゲルを出発点として、ニーチェ、ショーペンハウアー、さらにはロシアの神秘主義哲学者ニコライ・ベルジャールにまでおよぶ、これらの哲学者に関する多数の著書・論文・翻訳がある。

教育面においては、平成7年4月以降の哲学教室をほぼ一人で運営され、教室選出の全ての委員を兼務されるかわり、教養セミナーの成果を学生が発表する場として、「知の旅立ち」の編集作業に深く関与され、平成11年・13年編集長も歴任。学生からもその格調高い授業は、特に優秀な学生から絶大な支持を受けていた。

大幸財団から
奨学金授与

平成22年度(財)大幸財団の奨学生の証書授与式が6月19日(土)、名古屋市東区にある大幸会館で行われた。この奨学金は、将来性を高く期待できる学業成績優秀な学生を対象とした育英奨学金と、学術研究・文化の振興を図る目的で、優れた若手研究者の萌芽的・独創的な研究を助成し、将来有為な人材を育成するための学芸奨励生があり、本学から次の4名に奨学金が授与された。

育英奨励生
心身科学部4年
大脇麻美
学芸奨励生
歯学研究科博士課程2年
加藤大貴
留學奨励生
経営学研究科修士課程2年
許振

流通科学研究所主催講演会開催

本年度第1回流通科学研究所主催講演会が、6月3日(木)午後1時30分から日進キャンパス学院会館大ホールにて開催された。

講師に十六銀行取締役頭取の堀江博海氏を迎え、「銀行と私」という演題で講演が行われた。

堀江氏は、本学法学部卒業後、十六銀行に入行され、総合企画部長、取締役秘書役、常務、専務を経て2009年

6月頭取に就任されている。講演の内容は、学生時代の話しに始まり、銀行業界の動向やそのなかでの同行の取組み、後輩である在校生がこれからどういったことに心がけて生きていくべきかなど、多岐にわたる有益なものであった。

当日は会場の席が足りなくなるほどの多数の参加者があり、学生達は熱心に講師の話に耳を傾けていた。

平成22年度
特待生選任式

平成22年度の本学特待生145人が6月9日の代表教授会で決定し、選任式が次のとおり行われた。

6月22日(火)
日進キャンパス
文学部・商学部
経営学部・法学部
総合政策学部
心身科学部
6月24日(木)
楠元キャンパス
12時15分から
歯学部
13時から
薬学部

この特待生制度は、前年度の学業成績が優秀であると同時に、人物が良好であること



などが受賞の対象となり、奨学金として年額30万円が給付される。

本年度は、文学部30人、商学部16人、経営学部20人、法学部18人、総合政策学部12人、心身科学部23人、薬学部9人、歯学部14人、外国人留学生3人の以上145人が特待生として選出された。

各代表者に、大野榮人学長から特待生証書が手渡された後、「この賞は平素の賜であり、これからは学生の自分たるを忘れることなく、勉学にそして学生生活の上でも他の模範となるよう精進していただきたい。」と挨拶があった。その後、黒神学生部長の挨拶に引き続き、文学部歴史学科4年藤井裕子さんが謝辞を述べ閉式となった。

平成
22年度

古川学術研究振興基金研究費9名に交付

本年度の古川学術研究振興基金による学術研究費交付伝達式が6月10日(木)楠元キャンパス学院長室、6月11日(金)日進キャンパス学長室にてそれぞれ行われた。

古川学術研究振興基金は平成3年に古川善次郎氏(元大学後援会長)の寄付金を基に創設され、独創的で学術的に幅広く社会に貢献することが期待される研究に対し助成されるもので、本年度の交付者は下記の9名に決定した。交付者と研究課題は次のとおり。

平成22年度 古川学術研究振興基金研究費 申請者一覧

学部	職名	名前	研究課題	交付金額(円)
文学部	准教授	ロウ・グレイ	Approaches to Visual Culture in English Education 英語教育における視覚文化への取り組み方について	300,000
心身科学部	教授	齋藤 真	脳内神経伝達物質の動態と「心」と「身体」の相互作用をめぐって —脳内「ドーパミン」や「セロトニン」の動態と「心」の関係—	300,000
商学部	教授	後藤 俊明	ドイツにおける優生学の展開とプロテスタント社会福祉 —消極的優生学とキリスト教の倫理の試み—	300,000
経営学部	教授	田中 浩光	回帰分析における観測過程に基づく 最小二乗推定方式の調整	300,000
法学部	講師	武田 典浩	取締役責任論における会社法と倒産法の交錯	300,000
薬学部	教授	井上 誠	天然由来性受容体peroxisome proliferator-activated receptor δ (PPARδ) の発現とメタボリックシンドロームの改善への応用	300,000
歯学部	特殊診療科 教授	榎田 光男	歯周病原細菌の口腔内および咽頭部の分布について	150,000
歯学部	講師	永野 恵司	細菌感染による歯周病発症マウスモデルの作製	150,000
教養部	講師	遠藤 哲也	哺乳類四肢再生を目指した器官培養解析系の確立	300,000



環境7大学集中公開講座 2010開催

7月4日(日) 午前10時30分より日進キャンパス百周年記念講堂にて、朝日新聞社主催「朝日新聞・メーテレ 環境7大学集中公開講座2010」が開催された。今回約2000名を超える応募があり、抽選の上で選ばれた1500名が参加し行われた。

この企画は2年連続で実施され今年で3回目となる。特に今年10月、名古屋で開催される「生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)」にちなんで企画で、地域社会そして次世代への環境問題啓発により貢献できるようにさらに拡大を目指すものである。

北川正恭氏のプロフィール
1944年生。早稲田大学第一商学部卒業。72年三重県議会議員当選(3期連続)。83年衆議院議員当選(4期連続)。95年三重県知事当選(2期連続)。「生活者起点」を掲げ、ゼロベースで事業を評価し、改革を進める「事業評価システム」や情報公開を積極的に進め、地方分権の旗手として活動。達成目標、手段、財源を住民に約束する「マニフェスト」を提言。現在、早稲田大学大学院公共経営学教授、「新しい日本をつくる国民会議」(21世紀臨調)代表、地域主権戦略会議構成員。主な著書に「行政改革」(ぎょうせい)等。



董 怡汝氏
博士(総合政策)

董怡汝氏は、昭和46年生。台湾・東呉大学外国語学部日本語学科、台湾・東呉大学大学院日本語学専攻科日本語学専攻修士課程修了。平成18年本学大学院総合政策研究科総合政策専攻博士後期課程入学、平成21年同後期課程単位修得

満期退学。現在台湾南榮技術学院応用日本語学科教員。博士論文の題目は、「現代日本における高齢者教育政策——愛知県日進市の事例を通して——」である。現在の日本では趣味中心の総花的なものが多く、社会生活における主体形成を目指した学習実践が少なくないことに着目し、国の政策を前提としつつ日進市の高齢者教育政策を事例として挙げ、その可能性と限界を分析した。今後の高齢者の学習の自由と自治を保障する教育的支援としての高齢者教育政策のあり方を提言している。



滝内 隆子氏
博士(総合政策)

滝内隆子氏は、昭和27年生。平成4年東洋大学通信教育課程文学部国文学科卒業後、常盤大学大学院人間科学研究科人間科学専攻修士課程修了、平成17年本学大学院総合政策研究科総合政策専攻博士後期課程入学、平成21年同後期課程満期退学。平成21年より本学総合政策研究科研究員。

職歴は、富山市立富山市民病院、富山市立看護専門学校、日本赤十字秋田短期大学助教。現在、石川県立看護大学助教授、現在は国立岐阜大学医学部看護学教授。博士論文の題目は、「占領期における看護職の継続教育に関する研究——リフレクティブ・コースに焦点をあてて——」である。看護基礎教育を終了した看護職の継続教育に焦点をあてたりリフレクティブ・コースを中心としたその成立経緯を、占領軍の記録文書をもとに実証的に分析し、戦後看護職教育戦史における意義と限界について解明している。本論文は占領期のみならずその後の日本の看護界に重大な影響を与えたことに論及しており、従来未解明であった歴史的事実を明らかにした点で関係学会への貢献度は高く、本論文の存在価値が認められる。

本学より
滝内 隆子氏
董 怡汝氏
の2氏に博士号授与

秋季総合テーマ「名作を通じた異文化理解」

開講日	講師	テーマ
10月9日(土)	堀田 敏幸 教養部教授	ボードレールと詩の中の生き様 —詩人のダンディズム—
10月16日(土)	堅田 研一 法学部教授	今村仁司「社会性の哲学」を読む —フランス現代哲学と仏教との交錯?—
10月23日(土)	松崎 博 文学部准教授	蝶々夫人の姉妹たち —異人種間のロマンス—
11月6日(土)	福山 悟 教養部教授	カフカと『海辺のカフカ』
11月13日(土)	鈴木 俊次 文学部教授	『不思議の国のアリス』とイギリス文化
11月20日(土)	勝股 高志 教養部教授	三国志の英雄たち —歴史、小説、そして芸能から—

お申込み・お問合せ

募集人員	350名 ※お申込み多数の場合は先着順ではなく抽選とさせていただきます。予めご了承下さいませ。お願い申し上げます。
受講資格	年齢性別不問
受講料	3,000円(資料代として)
申込受付期間	平成22年8月19日(木)~8月30日(月) 必着
申込方法	必要項目(氏名・住所・電話番号・FAX・年齢等)を記入した申込用紙を郵送するか、FAX・メールにて公開講座係まで送信してください
お申込み	〒470-0195 愛知県日進市岩崎町阿良池12
お問合せ	愛知学院大学「公開講座」係 TEL: 0561-73-1111(代) FAX: 0561-73-9222 E-mail: koukai-k@dpc.aichi-gakuin.ac.jp

総合テーマ「生物多様性と環境」と題し、5月22日(土)から毎土曜日全6回にわたり開催された春季公開講座が6月26日(土)に無事に全日程が終了し、各回とも多数の方が受講し、活気あふれる講座となっていた。

開講式には全6回の講座のうち4回以上出席の受講者には清水公開講座委員長より修了証書が手渡された。今回は375人の受講者のうち302人に修了証書が渡された。なお、同一テーマにて10月



愛知学院大学 春季公開講座終了

3日から12月26日までの毎日曜日に東海ラジオをキー局として、静岡放送・北陸放送からも配信。

今年度、秋季公開講座は「再発見!アジアの魅力と日本」を総合テーマに、10月9日(土)より全6回で開催される。申込みは8月19日(木)~8月30日(月)まで郵送・FAX・メールにて、愛知学院大学「公開講座」係までお申込みください。

各回のテーマおよび講師は次のとおり。

佐藤心身科学部長 第61回日本東洋医学会 学術総会を主催

心身科学部長佐藤祐造教授が会頭となり、第61回日本東洋医学会学術総会が6月4日(金)から6日(日)迄、名古屋国際会議場で開催された。

日本東洋医学会は1950(昭和25)年に発足し、会員数約8700名、名古屋では8年振りの開催。約3000名が全国各地より参加し、数多くの講演や学会発表が行われ、活発なディスカッションが展開された。

学術総会のメインテーマは「21世紀における漢方医学・医療・基礎と臨床」で、特別講演は、高久史郎学長(自治医大)に「21世紀の東洋医学」、北島政樹学長(国際医療福祉大)には「最先端医療と融合した新しい日本型医療の提言」と我が国の内科学、

外科学を代表する研究者/臨床家の講演があった。

会長講演は寺澤捷年教授(千葉大大学院)による「和田啓十郎著『医界之の鉄柱』と漢方の課題」、会頭講演は「21世紀の漢方医学生活習慣病予防治療の新しい可能性を求めて」のタイトルで、糖尿病/インスリン抵抗性と漢方薬に関する研究成果を紹介した。漢方薬に関する臨床、教育、研究がなお一層進展するように、また漢方薬の市民への理解が深まることを目的として、教育講演9、シンポジウム13が開催され、公開講座も開催された。

また、日本東洋医学会会員約300名が参加した懇親会では冒頭に、小出忠孝学院長の挨拶があった。



心身科学部長佐藤祐造教授 日本糖尿病学会「坂口賞」を受賞

日本糖尿病学会は医師を中心とする会員数が急激に増加し、約1万6千名と臨床医学系のメインの学会の1つとなっている。

「坂口賞」は、故坂口康蔵日本糖尿病学会名誉会長(東京大学名誉教授、糖尿病診断のための坂口試験食を考案)を記念した賞であり、日本糖尿病学会の発展、糖尿病学の進歩ならびに糖尿病に関する啓蒙、福祉に著しく貢献した会員に贈呈されることとなっている。

佐藤教授は長年に亘り、糖尿病、肥満/メタボリックシンドローム、老化と運動に関する研究に精力的に従事しており、日本糖尿病学会では評議員、理事を歴任し、現在「糖尿病運動療法、運動処方確立のための学術調査研究班」の委員長を務めている。

糖尿病患者が糖尿病合併症の発症、進展を防ぎ、良いQOLを達成するためには、適



2009年度生活経済学会奨励賞

近藤万峰 商学部准教授 授賞

6月19、20日に東北福祉大学で開かれた生活経済学会第26回研究大会にて、本学商学部近藤万峰准教授が奨励賞を受賞した。対象となった研究業績：著書は「ポストバブル期の金融機関の行動―新しい時代のリテール金融の確立に向けて―」(愛知学院大学産業研究所報「地域分析」第47巻増刊号)。

著書の概要は、金融システムにおける規制緩和が大幅に進み、金融機関間の競争が激化しているバブル崩壊後に注

平成22年度 心身科学研究所講演会

心身科学研究所では、去る4月28日午後3時20分から4時50分まで、京都大学大学院特任教授柳田充弘先生にお越しいただき、「いのちを受け、いのちを渡し、いのちの長さを大事にする」を演題にご講演を行っていただいた。

柳田先生は生命科学の領域で世界的な業績を上げてこられた方で、酵母を用いた細胞周期の制御と染色体分配の機構についての研究が特に有名であり、文化功労者、日本学士院恩賜賞などの栄誉もお受けである。

当日は、細胞の長寿の維持のしくみなど先生のご研究の成果をはじめ、日頃の生活や信条まで、広範囲の大有益なお話をいただいた。心身科学部学生を中心に130名以上が受講し、また、本学心身科学部教員を中心とする多くの教員や一部学外からの参加者もあり、盛況のうちに終了することができたことは、同研究所の前所長村松喬教授をはじめとする関係者の皆様のお骨折りのおかげである。

柳田先生らのスナップ写真は、当日の会場で撮影された写真のうちの一枚である。



図書館で授業オリエンテーションクイズ 公開抽選会を開催

図書館情報センターおよび図書・薬学図書館情報センターでは、学生諸君に図書館をもっと知ってもらい、もっとよく利用してもらおうと、補元の図書館は平成16年度から、日進の図書館は平成19年度から、図書館オリエンテーションをスタート。

去る7月13日(火)の昼休み時間に、図書館情報センター入口エントランスにて、春学期授業オリエンテーションクイズ公開抽選会が行われた。宝多園弘館長が当日集まった学生ら約30名に、「このすばらしい図書館を大いに活用してください。」と挨拶し、さっそく抽選に入った。賞品の1等は、iPad nano(1名)、2等は、iPad nano(1名)、3等は、日進の図書館では、その他に学生個人の申し込みによる

「館内オリエンテーション」、「書庫オリエンテーション」(2年生以上対象：このオリエンテーションを受ければ書庫に入る事ができる)など実施。また、補元の図書館では、薬学部・薬学部・短期大学部の全学生に対し、春学期スタート時に図書館オリエンテーションを実施している。

平成22年度支部懇談会 盛況のうち全日程終了

全国22会場で開催された支部懇談会は、全会場とも多数の後援会会員の出席のもと開催され、7月4日(日)平成22年度の全日程が無事終了した。

本学を会場とした名古屋支部懇談会も多数の後援会会員の皆さんが出席し盛大に行われた。当日はけやきテラス3階のホールに溢れんばかりの出席のもと開催され、青山稔後援会会長・小出忠孝学院長・大野榮人学長の挨拶のあと、佐藤祐造



心身科学部長による「漢方医学入門」と題し講演が行われ、教務・学生・キャリアセンターによる説明、大和証券に内定した商学部ビジネス情報学科4年小澤愛さんによる就職体験談の後、学部別に分かれ熱心な話し合いが行われた。

2010

就職戦線と
キャリアセンター景況感が採用環境に
影響を与える

景況感が採用環境に、各企業は「勝ち残るために必要人材の確保」を目指し、選考基準のハードルを高く設定しています。学生は、「内定を早く取りたい」という意識が強く働き、多くの企業にエントリーします。これらの要因が内定獲得を困難にしています。各社のエントリー者数は増加し、筆記試験で足切りをして、面接を受けることができない企業が増加しました。これから就職活動が始める3年生の皆さんは、十分な筆記試験対策をしてください。

キャリアセンターの
取り組み

キャリアセンターでは、例年卒業生と大学との生きた情



報交換をする場として「交流懇談会」(本年は7月2日)を開催しております。1部は合同企業説明会として4年生が多数参加、2部は卒業生間のネットワーク作りの場として機能しております。

その他、就職未決定者には、求人企業の紹介や受験への継続的支援を行っております。採用環境の変化に対応する為、企業の情報収集を徹底に行い、各業界や各企業が求める人物像に合わせた就職支援や個人指導に力を注いでおります。

エントリーシートの添削、模擬面接、グループディスカッションの講習会を行い、近年重視される人物重視の選考に対応しています。これらの支援は3年生の秋から実施しています。今年は特に筆記試験対策としてSPI2の講座枠を増強しました。

今日の就職活動は、在学期間の努力が問われます。キャリアセンターでは、低学年キャリア開発支援にも取り組んでいます。パソコン、外国語(TOEIC・英会話)、簿記などの各種講座のほか、キャリア・デザイン(1・2年生対象講座)を開講しています。企業訪問や、グループワークを体験し、「社会人基礎力(自ら考える力、コミュニケーション力など)」を育成します。さらに、インターンシップ(2・3年生対象)では、企業実習を通して、社会人の働き方・考え方に触れ自分と向き合い、再認識してもらいます。そして、残りの学生生活を充実させ、就職時に「企業に売り込む強み」を形成してもらいます。

これらキャリアセンターが提供する支援活動に積極的に参加し、将来の可能性を広げてください。

公務員受験について

今年卒業した1004名が合格し公務員として活躍しています。景況感から公務員志望者は増加、民間から公務員受験にシフト、既卒受験者の増加が拍車をかけ狭き門となっています。公務員において人物重視の傾向は強まり、学生時代にボランティア活動をするなど人と触れ合う経験が大切です。一方、筆記試験

本年度卒業見込みの
皆さんに

就職活動が停滞、内定を絞り込めない学生は、キャリアセンターに気軽に相談に来て下さい。最後まで諦めないでください。必ず目標は達成されます。卒業後、自分らしく働くことで社会に貢献し、自己の可能性を見出すことが就職の真の目的です。

夏季企業就職面談会
開催

7月2日(金)名古屋・栄のガーデンパレスにて、「夏季企業就職面談会2010」



が実施された。当日は、50社の企業参加があり、どのブースでも熱心な相談が繰り広げられていた。未曾有の不況のなか、参加した学生もリクルートスーツで身を固め、自らのアピールをするともに、人事担当者の説明に熱心にメモを取る姿が、あちこちで見受けられた。参加した学生の延べ人数は1796名に上った。

今後も現3・4年生を対象とした就職ガイダンスや面談会を多数実施し、就職活動を行う学生に積極的に情報提供をしていく。

7月2日(金)名古屋・栄のガーデンパレスにて、「第16回卒業生・企業人事担当者」と大学との交流懇談会」が実施された。

懇談会の開催前に同会場にて夏季企業就職面談会が開催され、就職面談会の後には出展いただいた企業人事担当者ら約300名以上の出席のもと、小出忠孝学院長、大野榮人学長の挨拶の後、青山稔後援会会長の乾杯の発生の後、和やかに企業人事担当者と大学関係者の懇談会が行われた。この企画は、10万名を超す社会で活躍する本学卒業生で、企業のオーナーや人事担当者

卒業生・
企業人事担当者と
大学との
交流懇談会 開催

との懇談を深め、本学3・4年生の就職活動において本学の学生の今後の心強い味方としてのネットワークの作成として位置づけ行われている。

Microsoft Office 世界学生大会2010
大学・短期大学部門エクセル銅賞を受賞

「Microsoft Office 世界学生大会2010」において、本学商学部ビジネス情報学科2年生の大野結衣さんが、大学・短期大学部門エクセル銅賞を受賞した。

この大会は学生にワードやエクセルの資格を取得し、社会人として必要なスキルを身につけ、さらに卒業後には国際的に活躍できる人材育成を目的に「マイクロソフト オフィス スペシャリスト(MOS/MCAS)」の配信元であるCertiport社(米国)とオデッセイコミュニケーションズが開催している。今回で8回目を迎える世界規模の大会で、日本では延べ2万5千人が参加した。



6月21日(月)に東京国際フォーラムで行われた表彰式では、株式会社オデッセイコミュニケーションズ・出張勝也代表取締役社長から表彰状が進呈された。

平成22年5月27日、29日にわたり岡山市にて開催された第53回日本糖尿病学会年次学術集会において、本学歯学部研究科歯科保存学(歯周病学)大学院3年生西川徹氏が、「糖尿病における歯周病増悪メカニズム」ラットにおける検討」と題し、一般演題1871題の中から、優秀演題の76題に選ばれ、プレジデントボスター賞を受賞した。

この研究は、糖尿病状態での歯周病が増悪するメカニズムを解明する目的で、ラットを用いて行った基礎的研究で、正常ラットと糖尿病ラットに実験的に歯周病を惹起させ比較したところ、糖尿病ラットの歯肉において炎症性細胞浸潤が強く、歯周病によって臨床的に重要な歯槽骨の吸収が進行していることが確認された。糖尿病ラットにおいて歯周病惹起側の歯肉では、iN



OSの遺伝子発現が著明に亢進しており、またNO産生過剰により生成されるニトロ化チロシンが糖尿病ラットの歯肉において増加していることが確認された。以上の結果は、糖尿病状態での歯周病悪化にNOが深く関わっていることを推測させるものである。

最後に、内科学講座成瀬桂子准教授の指導のもと行われた本研究は、歯周病学講座と内科学講座、口腔解剖学講座との共同研究であり、今後のさらなる発展を期待したい。(文責・歯学部教授野口俊英)

日本糖尿病学会
プレジデントボスター賞受賞

2010年

研修シーズン到来!

夏休みに入ると本学の年中行事である夏期海外語学研修や、新入生対象の永平寺一夜参禅が行なわれる。また、ゼミやクラブ活動の合宿も盛んに行なわれます。貴重な人やモノとの出会い、青春を謳歌できるこの機会を有意義に活用して、自己研鑽につとめて下さい。

海外語学研修
永平寺参禅Bond University
ボンド大学

ホームステイを通じ、生活習慣を実体験

■大学紹介

1987年にオーストラリア初の私立大学として設立された大学。クイーンズランド州ゴールドコーストの閑静な住宅地ロビーチ地区に立地し、学生数は約2000人。世界47カ国から留学生を受け入れ、予備講座を行う付属機関として「ボンド大学付属英語学校」も開設。スポーツ施設をはじめ

充実した設備と教育環境が整っています。
■周辺環境
ゴールドコーストの中心サファーズパライスまでは車で15分ほど。海岸沿いのリゾートには無数の高層ビルがそびえる一方で、大学は静かな住宅地に位置し、水辺と自然に囲まれた高層で美しいキャンパスです。
■期間
7月31日～8月23日(24日間)
■コース内容
ボンド大学付属英語学校による約80時間の英語授業と様々な

課外授業を体験できるプログラムとなっています。研修後はシドニーに立ち寄り、自由研修を行います。
English Language Institute



■引率者
丹下博文経営学部教授
近藤健一教務課職員
<http://www.bond.edu.au/english>

University of Victoria
ビクトリア大学

雄大な自然の中でのびのび英語にひたる

■大学紹介

ビクトリア大学は1963年の創立でバンクーバー島の南端に位置する清潔で安全、しかも眺めのすばらしいブリティッシュ・コロンビア州の州都にあります。大学キャンパスには、図書館・美術館・劇場・スポーツセンターなどの施設があり、研究面では特にアジア太平洋地域の研究が盛

んな大学です。
■周辺環境
カナダ最西端バンクーバーアイランドの中心地ビクトリアはイギリス文化が残るカナダ有数の観光名所です。大学構内や家・道路など街のいたるところに花が植えられ緑も多く、街の人々とはとても親切で安全な街です。語学力・海外生活に自信がない人でもとても溶け込みやすい最適な環境です。
■期間
8月6日～9月6日(32日間)
■コース内容

英会話力向上のため授業をほかのコースを延長して3週間半に渡って英会話の授業を行います。また、英会話以外の教養講座ではカナダの歴史・社会・経済・法律などの授業も行い、午後のアクティビティには、美術館や街に出かけるのブリティッシュ・コロンビア発見ツアーやハウエルウォッシングを行います。
English Language Centre
<http://www.jvcc.ca/eltc>
■引率者
グレン・ガニエ教養部外国人教師
加藤亮一学生課職員

The University of Edinburgh
エディンバラ大学

AGU語学研修開始時から伝統校で語学力UPを目指す

■大学紹介

1583年に創設された大学で、キャンパスは街の中心にある法・人文・医学・音楽・社会科学部などがあるオール・カレッジと理系の学部が集まるキングス・ビルディングに分かれています。大学の誇る応用語学研究所は優れたスタッフと教材を揃えており、研究所主催の語学研修に

は世界各国の人たちが参加しています。
■周辺環境
中世を体感できる街エディンバラは、優雅で威厳を保つ天然要塞として名高いエディンバラ城を中心に、伝統・建築・史跡遺産が歴史の重みを感じさせます。また、興奮醒めやらぬフェスティバル(Military Tattoo)によって私たちが魅惑の中世へと導いてくれます。
■期間
8月14日～9月7日(25日間)
■コース内容
英会話を中心にイギリスの歴



史、文化、経済、法律などを学びます。街に出ての課題や様々なアクティビティを行い、週1回のオープンショナルハーフデーツアーも用意されています。
Institute for Applied Language Studies
<http://www.iats.ac.uk>
■引率者
伊藤徳正商学部准教授
星野康徳入試センター職員



永平寺一夜参禅

永平寺一夜参禅が今年も8月4日から開催されます。

この行事は、本学の建学の精神「行学一体・報恩感謝」に基づく伝統の研修行事で、日々の行事の中で厳しく真理を追求した祖師の精神に少しでも触れることによって、勉学や社会生活に生かすことを目的としています。坐禅をとおして人間形成に資することにも、自立できる大学人となる一助として行われるものです。

《日程》
第1班 8月4日～5日
第2班 8月5日～6日
《参加費》
2000円

※福井県にある曹洞宗大本山永平寺は、今から約770年前の寛元2年(1244)道元禪師によって開創された「日本曹洞宗」の第一道場出家参禅の道場です。

樹齢約700年といわれる老杉に囲まれた静寂なたたずまいの霊域に、七堂伽藍を中心に70余棟の殿堂楼閣が建ち並んでいます。
この静寂なたたずまいの中で説法を聞き、坐禅を行うなど、尊い修行体験を味得ることが出来ます。



海外語学研修壮行会

7月6日(火)、午後12時50分より日進キャンパス本部棟3階大会議室において、平成22年度海外語学研修壮行会が行われた。

当日は、大野榮人学長、青山松後援会会長の挨拶の後、柴田国際交流センター事務長より今回の引率者と参加者代表の紹介があり、各コースの団長の挨拶と各コースの学生代表が抱負を述べる挨拶があり終了した。



海外語学研修壮行会